

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人別府サレジオ学園
大分明星幼稚園

1、本園の教育目標

ドン・ボスコの教育理念に基づく全人間教育

神と人に開かれた善良で誠実な子ども： ・明るい心・きれいな心・しなやかな心

2、本年度重点的に取り組む目標・計画

70周年を感謝と希望をもって過ごした今、100年に向かってこれからもサレジオの精神がさらに浸透し、園の教育が充実・発展するよう尽力する。

① 建学の精神：聖書のお話を学び、イエス様の優しさや教えを子どもに話し、一緒に実行する。

② SDGs 15：「みどりの世界」をつくりだすために3Rに子どもと一緒に取り組む。

③ 園内研修：年齢に応じたキリスト教教育を保育の中で実践する。（神様のお話・お祈り）

3、評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	聖書のお話を学び、年齢に応じたキリスト教（神様のお話・お祈り）を保育の中で実践する。	A	学年毎に園長先生から紙芝居や絵画を用いながら聖書のお話を聞き、クラスで振り返ったり、宗教行事では活動の度に子ども達の思いや考えを出しあう時間を持つたりすることで、子ども達自ら神様、マリア様と親しくなっていた。研修において建学の精神に返り、保育とドン・ボスコの教育を深めた。聖書についてもっと個人個人が深める意識を持ちたい。
2	「みどりの世界」をつくりだすために3Rに子どもと一緒に取り組む。	A	3Rについて絵本で説明したり、話し合ったりすることによって、紙は木でできていることやリサイクルをしてトイレトペーパーができていていることを理解してきた。また、ゴミの分別への関心を持ち始めている。野菜を育てる過程を見ながら、自然を大切に作る心も育てている。残食がないように、個々に合った量を調整したり、完食に挑戦しようと呼びかけたりして応援してきた。今後も視覚的表示を示しながら取り組んでいきたい。
3	学年に応じた保育を行うために、環境構成と教師の援助を模索する。	B	公開保育を通して適切な教師の援助や狙いに合った環境構成を話し合った。また11月のカトリック研修に向けて年間を通してドン・ボスコの教育をどのように保育に取り入れているか全職員でエピソードを持ち寄り研修した。その成果を共通理解をしながら保育計画に活かしていった。

評価（A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった）

4、総合的な評価結果

評価	理由
A	ドン・ボスコの教育法が、幼稚園教育要領が示している3つの資質能力と10の姿と通じるものがあることを再確認した。宗教（カトリックの教え）について学び、子ども達にどのように伝えていくべきかを常々話し合い考えながら取り組んでいった。昨年度の反省に基づき子どもの様子を週1回ブログをアップすることができた。

5、今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
宗教教育	今年度の目標を来年度も継続し、職員自身が疑問を持ち聖書を読み深め研究に努める。
SDGs	気温の上昇の理由を考えると共に防災について危険から逃れることも学んでいきたい。
教育課程	発達に合った遊びや活動の工夫を話し合い、深めながら「やってみたい」を感じられる工夫をしていく。

6、学校関係者評価委員会の評価

今年度も幼稚園の活動や行事を通して、学年に応じた教育がよくなされている。年間を通して宗教（カトリックの教え）のお話を継続的に行われていることが感じられた。またSDGsの取り組みから子どもの理解ができる範囲で自ら考えようとする力が培われている。